

港湾・公共交通対策特別委員会審査概要報告書

委員長 曾田 康司

- I 開催年月日 令和4年10月12日(水)
- II 会議時間 午後1時00分～午後1時45分
- III 出席者 [委 員] ◎曾田 康司 ○林 貴文 山上 尊士
田中 勝文 出町 讓 筏井 哲治
酒井 善広 石須 大雄 横田 誠二
藪中 一夫 福井 直樹 大井 正樹
- [説明員] 別紙名簿のとおり
- [委員外議員] なし
- [事務局職員] 西本 幸夫 高嶋 史恵 宮崎 篤生
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[産業振興部]

(1) クルーズ船の誘致について

(2) 背後地観光について

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問の内容は「○」、答弁の内容は「△」で表示)

【クルーズ船の誘致及び背後地観光について】

- 背後地観光について、報告資料にある伏木港からの利便性を生かした観光という
ことで、シャトルバスで高岡駅までということもあるが、伏木から入ってきた

からこそできる観光として、地元の力を借りながら、もう一步深い形で伏木をアプローチしながら高岡をより広く知ってもらう部分もあればいいと考えるが、見解は。

△ 平成 30 年に MSC スプレンドィダという外航クルーズ船が伏木港に寄港した際には、3,080 人の乗船客のうち、900 人が高岡駅前までのシャトルバスを利用し、200 人は別に伏木巡回のシャトルバスを利用した。そのほか 1,013 人が高岡市の観光地を含むオプションツアーに参加している。オプションツアーの内容については、高岡大仏や瑞龍寺などをまわっている。現在、行っているポートセールスにおいても、市内の観光地や、3 寺（瑞龍寺、勝興寺、国泰寺）をまわり、日本文化に触れていただく企画も積極的に PR し、本市を観光していただけるような取組みを引き続き行っていきたい。

○ クルーズ船の誘致について、現在、コロナ禍の状況でもありなかなか厳しい状況であるとは、重々承知しているが、コロナ感染拡大前後の伏木港、富山新港、金沢港の寄港数の実績は。

△ コロナ感染拡大前の令和元年度は、伏木港が 2 隻、富山新港が 2 隻、金沢港が 51 隻である。2 年度は、3 港とも実績がなかった。3 年度は、伏木港がゼロ隻、富山新港がゼロ隻、金沢港が 4 隻である。4 年度の予定では、伏木港がゼロ隻、富山新港が 3 隻、金沢港が 10 月の予定 1 隻も含めて 7 隻である。

○ コロナの状況も踏まえ、厳しい状況が続いていると感じた。伏木港の元々の目的ということも考える必要があるが、引き続き、クルーズ船で伏木港に来ていただいて、実際に高岡の魅力に触れていただかないと、なかなか高岡ファンというものを作っていくと考えることから、引き続き、誘致に尽力いただきたい。（要望）

○ クルーズ船の誘致とともに、背後地観光の整備が重要であることを再認識した。そこで、背後地観光について、今後の方向性を提案いただいた。加えて、本市が誇る歴史文化資産である勝興寺や万葉歴史館など、伏木港周辺には観光名所が多数あり、これらもしっかり活用していくことも重要であるとする。また、伏木港周辺には、源義経ゆかりの如意の渡しがあった由緒ある場所である。かつては渡し船が運行されており、地元の足、観光客用に利用されていたと記憶している。残念ながら、2009 年の万葉大橋開通後に廃止となったが、例えば、クルーズ船入港時、あるいは各種イベントに合わせて、如意の渡しの復活を検討しても面白いのではないかと考える。重要伝統的建造物群保存地区の 1 つ吉久地区をつなぐ導線としても活用できるのではないかと考える。まずは、試行的に、如意の渡しを実際に体験し、海上から港全体を視察することが可能かどうか、見解は。

△ まずクルーズ船の受け入れについては、船会社や旅行会社から聞き取りし、乗船客のニーズにお答えする形で背後地観光を整備し、まずはクルーズ船の誘致につなげていきたい。その上で、吉久の歴史的な町並みなどにもクルーズ船の乗客を含め、多くの観光客が足を運んでいただけるようなアイデアを考えていきたい。伏木港の整備状況や港全体を見ていただけるような対応は、今後検討したい。

○ 前向きな答弁と理解した。本委員会メンバーで実施するのか、他のしかるべき

団体等で実施するかはともかく、ぜひこの企画を検討いただければ、大変勉強になる。(要望)

- クルーズ船内で出されている食事は、美味しいものが提供されていると承知している。その上で、客が船から降りた時に食べたいものは、よほど魅力があるものでないと受け入れられないのではないか。そういった意味では、クルーズ船内でのどのような食事が提供されているのか調査分析し、高岡での食のおもてなしの参考としては。
- △ クルーズ船内の食事内容については、詳細に把握していない。直ちにその客船内の調査に出向いていくというよりも、まずは実際に客船内で提供される食事メニューなどについて関係機関等に問い合わせを行い、高岡で一体どのような食を提供すれば乗船客に選んでいただけるのかといった視点をもったうえで、今後の方向性について検討を進めていきたい。
- 稼ぐ観光とあるが、「観光地を見に行きましょう」だけでは難しいと感じる。稼ぐために必要と考える食や買い物まで含めた背後地観光整備について、考えは。
- △ 以前に乗船客が市内を周遊した際に、地元の商店街の方々と連携し、特典の提供や割引販売の実施などにより、賑わいづくりプラス稼ぐ方法の2つの観点で趣向を凝らした企画を実施してきたところである。また、食についても、ニーズとしては富山湾の新鮮な魚をネタに寿司を食べたいというような声も多くあったので、店舗の紹介の充実に努めてきたところである。稼ぐということについては、クルーズ船の乗客のニーズを掴み、ニーズに基づいたものを紹介することが重要になってくると考える。事前にいろいろな状況や情報を掴んだ上で、その時々の乗客の嗜好に合ったものを提供や紹介していけるような体制をとっていきたい。
- ぜひ当局の皆さんも実際にクルーズ船に乗っていただきたい。先日、高岡大仏の前での朝市に早朝にもかかわらず多くの人に来ていた。お店と言っても、店舗だけでなく、テントや屋台みたいなものでも観光客からすると大変新鮮かもしれない。そういった意味では、船着場に朝市のようにテントが並ぶだけでもすごく魅力なのではないか。今後とも、知恵を絞って、なるべくお金かけずに工夫しながら、地元の力を最大限活用するような仕掛けを検討していただきたい。(意見)
- 令和5年度は合計7隻の伏木港寄港の問い合わせがあるということだが、具体的に目標数字はあるのか。また、どのようなクルーズ船の誘致を狙っているのか。
- △ 伏木港の最大の強みということで、大型客船というところをターゲットにしていきたい。目標数は申し上げづらいところもあるが、総合計画第4次基本計画において、令和8年度の目標数を15隻と掲げている。そこに少しでも近づけるよう積極的にポートセールスを行ってまいりたい。
- 背後地観光整備について、いろいろ工夫されているということだが、クルーズ船が来ない限りは実施できないので、今後ともクルーズ船の誘致に尽力いただきたい。(要望)
- 以前、水陸両用バスの導入検討を提案したことがある。その時は、海に出るの

はなかなか厳しいという意見もあったが、今、名古屋では、港クルーズと観光の視点でマリナーという水陸両用バスが導入されている。伏木港での出迎え、如意の渡しの復活など、様々なパターンで組み合わせることもできるかと思う。課題はあるが、幅広い視点で検討しながら進めていただきたいと思います、提案になるが、見解は。

- △ 委員ご提案をいただいた水陸両用バスについては、伏木港からまちなかへの周遊ルートを様々な視点で検討しているなかで、広がりを持ってくる可能性があることに加え、移動そのものが楽しくなってくるといったような意味で、乗船客にはアトラクショナル面白さを持った観光に繋がっていくのかなと感じた。市内観光コースとして成立していくのかというような部分も含めて、今後調査研究していきたい。
- なかなかクルーズ船のみで行政が主体となって運行するのは難しく、地元のバス事業者など民間事業者が請け負ってもらえるかという話もあると思うが、日常運行していても高岡の大きな魅力の1つになるのではないか。今すぐの実現可能性は低いと思うが1つの意見として述べた。(意見)
- 外国籍のクルーズ船を入港させるには、ガイドラインが必要である。このガイドラインが出来なければ、結果的に寄港しないことになる。日本中の様々な港から声が上がらないと国も動かないと仄聞しており、伏木港だけの動きはなく、全国的な繋がりの中で、国に対して、早急にガイドラインを策定するように提言していく方法をとれないのか。
- △ 現状、ガイドラインが策定されていないということで、確かに外国籍のクルーズ船は寄港ができない。これは伏木港だけではなくて、全国でそういう状況だということである。一方で、今後のコロナ対応の動向を注視しながら、クルーズ船の寄港先が連携して、こういった取組みが可能かということも含めて検討していきたい。
- △ 来年、日本船籍が2隻寄港ということになっているが、この機会を大事にしていきたい。(要望)
- 2点提案というか、お願いがある。1点目は、伏木港は、15万トン級の大型クルーズ船が入港できるという強みがある。今後とも、強みを生かしたクルーズ船誘致に取り組んでいただきたい。実績を見る限り、選り好みできる状況ではないが、そのような部分も視野に入れ、大型客船は今後、新しく竣工してくることもあり、北陸で初めて伏木港に寄港することも可能性としてあることを念頭に地道な取組みを続けていただきたい。もう1点は、複数の委員から、実際の体験の必要性について、斬新な提案もあった。特に、陸上から港を見ることも大事だが、実際に船の上から港を見るということも本委員会が必要ではないかなと考える。ぜひ本委員会でも日程調整のうえ、検討いただきたい。(意見)
- 実際に船に乗って伏木港を視察するという提案があった。私の記憶では、伏木校が寄り回り波で、岸壁が破損したときに国交省の船で、沖から岸壁の破損状況を視察したこともある。そのような機会は大変重要であり、先方のある話ではあるが、日程も含め調整したいと考えるが、実施の方向でよろしいか。

〈 委員から特段の意見なし。概ね了 〉

○ それでは、その方向で進めたい。

2 その他

〈 本委員会の行政視察について 〉

11月9日（水）、10日（木）の1泊2日の行程で、神奈川県横浜市を視察することが報告された。

〈 次回の本委員会の開催について 〉

次回、11月25日（金）、午前10時から本委員会を開催することが報告された。併せて、11月25日（金）の本委員会終了後、午後1時30分から万葉ふ頭のバイオマス発電所を見学することが報告された。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[未来政策部]

・万葉線ドラえもんトラムの全般検査及びラッピングの更新について

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

万葉線ドラえもんトラムの全般検査及びラッピングの更新について

○ 万葉線車両のラッピングのデザインが変わらないということは、契約を更新するということによろしいか。

△ ラッピングについては、昨年、契約の更新を行っており、3カ年の契約となっている。

○ ラッピングの更新とは、どのような内容か。

△ 全般検査は、自動車に例えると車検に該当するが、この際に、車両の現在のラッピングを一旦剥がす必要がある。また、契約期間中のため、現在と同じデザインのを再度ラッピングするという意味での更新である。

○ 冬前の更新、検査はありがたい話である。万葉線全体のことであると、市民の足を守るため、引き続き、尽力いただきたい。（要望）

- 確認だが、万葉線ドラえもんトラムは1台か。
- △ 1編成である。
- 最後に、万葉線ドラえもんトラムを目当てに全国各地から本市を訪れる方がいる。このことを踏まえ、あらゆる手段を使って万葉線ドラえもんトラムがお休みするということを告知していただくことをお願いしたい。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・公共交通対策特別委員会 当局説明員（13名）

副市長	河村 幹治		
未来政策部長	鶴谷 俊幸	都市創造部長	赤阪 忠良
未来政策部次長 未来課長	日名田 尚明	都市創造部次長	澤 徹
総合交通課長	表野 勝之	都市創造部次長	西條 正輝
		都市創造部次長 都市計画課長	山森 久史
産業振興部長	式庄 寿人	土木維持課長	割田 一郎
産業振興部次長	堺 啓央		
産業振興部参事（兼務）	西條 正輝		
観光交流課長	森川 朋子		
みなと振興課長	氷見 和人		